

聖書日課 『からし種』 2019.2.10~2.17

<p>10日 (日)</p> <p>I テモテ 4章</p>	<p>「神がお造りになったものはすべて良いものであり、感謝して受けるならば、何一つ捨てるものはない…。神の言葉と祈りによって聖なるものとされるのです」(3-4節)。</p> <p>どのような働きでも、キリストの祈りによって整えられ、主が備えて下さる賜物を通してわたしたちを豊かに用いて下さる。主の計画に期待と感謝の思いをもって歩みたい。</p>
<p>11日 (月)</p> <p>I テモテ 5章</p>	<p>「神とキリスト・イエスと選ばれた天使たちとの前で…命じる。偏見を持たずこれらの指示に従いなさい。何事をするにも、えこひいきはなりません」(21節)。「偏見を持たず」「えこひいきせず」神の言葉に従うことの難しさをパウロは語る。教会の交わりの中でもキリストを中心に隣人と出会うことなしに、神の共同体を建て上げることは難しい。</p>
<p>12日 (火)</p> <p>I テモテ 6章</p>	<p>「信心は、満ち足りることを知る者には、大きな利得の道です」(6節)。キリスト・イエスの言葉に結ばれる生活は、満ち足りる道につながる。妬み、争い、中傷、邪推、言い争いが生じる時、キリストの健全な言葉から離れた「わたし」がいる。キリストの命によって建てあげられる真の基礎が備えられるよう祈り求めたい。</p>
<p>13日 (水)</p> <p>II テモテ 1章</p>	<p>「神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださった」(7節)「わたしにゆだねられているものを、その方がかの日まで守ることがおできになると確信しているからです」(12節)。獄中であっても、パウロはキリストにある希望を語る。神が私たちに困難な道だけでなく、主の力と愛と希望に気づく霊をくださっている。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com 大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2019.2.10~2.17

<p>14日 (木)</p> <p>Ⅱ テモテ 2章</p>	<p>「主はあなたがすべてのことを理解できるようにしてくださいからです」(7節)。福音の中心、十字架のイエス・キリストは、直弟子でもすべてを理解することは難しかった。しかしイエス・キリストの十字架の愛をいただく私たちは、日常の中でさまざまな言葉に不安になる時にも主の言葉から希望をいただき、キリストの真理の内に生きる者とされて。</p>
<p>15日 (金)</p> <p>Ⅱ テモテ 3章</p>	<p>「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は…十分に整えられるのです」(16-17節)。私たちに託されている聖書には、神の愛が綴られている。神は愛をもって私たちを教え、戒め、誤りに気づかせ、神の義に生きる者へと整えてくださる。</p>
<p>16日 (土)</p> <p>Ⅱ テモテ 4章</p>	<p>「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい」(2節)。福音を伝えるためには、私自身が聖書からキリストを見出す必要がある。いつもキリストが土台にいないと、都合の良い言葉、好きな教師の言葉ばかりに耳を傾け、自分に都合の良い話を作り上げてしまう。耳の痛い戒めでもキリストの言葉に根ざした歩みに心を向けたい。</p>
<p>17日 (日)</p> <p>テトス 1章</p>	<p>「信仰を共にするまことの子テトスへ。父である神とわたしたちの救い主キリスト・イエスからの恵みと平和とがあるように」(4節)。パウロが若き同労者テトスに書いた手紙には、教会の指導者として立つ心構えが厳しい言葉で記されているが、パウロが年若い彼らをいかに愛し、尊び、彼らを覚えて祈っていたか。その深い祈りに教えられたい。</p>